

取組名	不審者侵入に対するKYT学習と避難訓練
取組の特徴	KYT学習を通して危険予知能力を高めるとともに、不審者侵入の類似体験を通して、危険回避に必要な能力を育む。
学校名	上関町立上関中学校

取組の概要

○ 健康で安全な生活を守るために（KYT学習）〈平成22年6月24日〉

- 資料の場面で起こりうる事件や事故などを多様に考える活動を通して、生活の中に潜む危険に気付くとともに、それらの危険を回避する方法を学ぶことを目的とした、KYT学習を実施した。
- 実際に起こりうるものとしてとらえられるように、職場体験学習の移動の場面や夏期休業中の生活などと結びつけながら、継続的に実施した。
- グループでの話し合い活動を行い、見いだされた危険について発表するとともに、対策や回避方法などについて、意見交換を行った。
- 事前に生徒を対象として行った危険予知に関するアンケートなども生かしながら、日常生活では気付くことのできない危険などについて考えを深めることができた。



○ 不審者侵入に対する避難訓練〈平成22年7月6日〉



- 柳井警察署室津派出所長、上関派出所長、柳井警察署生活安全課の方を招いて、生徒の避難訓練と講話、教職員の不審者対応の実技指導（さすまたによる）を受けた。
- 授業時間中に校舎付近をうろうろしている不審者に教職員が気付くという想定で実施した。
- 発見した教職員が用向きを伺い、その後の行動で不審者かどうかを判断し、危機管理マニュアルに従って対応した。
- 近くにいた教職員が手近にあるさすまた等で不審者を威嚇し、生徒が安全に避難できるように時間稼ぎを行った。同時に警察署への通報を行った。
- 教職員の携帯電話等を活用し、連絡を取り合いながら、最も安全な避難経路を選択し、生徒を誘導した。
- 生徒の避難状況、教職員の対応について、警察の方から指導・講評を頂いた。
- 生徒たちは、「知識として学ぶだけではなく、訓練をしておかなければ、いざという時に対応できないということを学んだ」、「全員が安全に避難するためには、単独の勝手な行動をせず、素早く動くことが大切であることを実感した」などと訓練を振り返っている。また、警察の方からは「できる限り不審者は室内には誘導しないように努力し、警察が到着するまでの時間を確保して欲しい」といった指導、助言を頂いた。危険を予知するだけでなく、体験的に学ぶことで、生徒だけでなく教職員もいざというときの対応方法について学ぶことができたと考えている。

取組名	「自転車盗難被害を防ぐ環境づくり」を目指して
取組の特徴	防犯意識を高める取組
学校名	周南市立富田中学校

取組の概要

10月中旬、周南警察署の青少年非行防止事業の一つとして、「中学生による自転車盗難被害の防止・少年の規範意識の高揚」をねらいに、新南陽駅駐輪場で少年リーダーズ活動が行われた。本校からは、3年生の自転車通学生9名が参加した。指導者としては、周南警察署員・安全安心まちづくりサポート隊員・少年相談員・スクールガードリーダーの方々計8名がこられた。

まず最初に、周南警察署の署員の方から、次の指導があった。

- 最近、自転車盗難被害が多いこと。
- 鍵をしっかりかけて、被害を防ぐこと。(できれば、ツーロックで)
- 自転車盗は決してしてはならないこと。

次に、駐輪場に駐輪してある自転車について、防犯診断カードの4つの項目を調べ、できていない自転車にはカードの各項目をチェックして、自転車に張り付けるように説明があった。(4項目は次の通りである)

防犯診断カード

- 鍵がありません
- カギがかかっていません
- ツーロックしましょう
- 記名がありません

(山口県警察本部・山口県周南警察署・山口県防犯連合会)

月 日 時

その後、実際に駐輪してある自転車約500台の点検作業を行った。点検の結果、駐輪してある大部分の自転車に防犯診断カードが張られていた。特に、無記名の自転車とツーロックのない自転車が多かった。

当日参加した生徒たちは、活動後、指導していただいた方々に次のような感想を述べていた。

- ツーロックのできていない自転車が多かった。
- 記名のない自転車が多かった。
- 自分もツーロックしなくてはならないと思った。
- 自転車盗難被害に遭わないためにも、きちんと鍵をかけたい。

生徒達は、今回の少年リーダーズ活動を通して、自転車盗難被害に遭わないためには、「記名をすること」と「確実に鍵をかけること(できればツーロック)」が大切であるということ、体験を通して再認識することができたと思われる。今後さらに、関係機関と連携を進めるとともに、体験活動等を充実し、生徒達の防犯意識を高めて、「明るく、健康で、思いやりがあり、自ら考え努力する生徒の育成」に努めていきたい。



【自転車の点検をする生徒たち】

取組名	市立図書館一体型の学校における不審者対応の避難訓練
取組の特徴	学校内に市立図書館『豊北図書室』が併設され、図書館の一般利用者が容易に授業中の教室へ立ち入りやすい本校の特性をふまえながら、不審者への対応や避難の仕方について実演を通して訓練し学習する。
学校名	下関市立豊北中学校

取組の概要

1 取組の内容

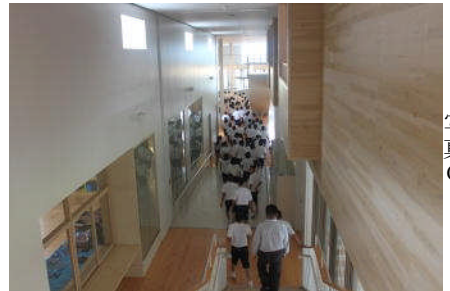
- ① 不審者の侵入
不審者役の警察署員がサングラスをかけ傘を持ったまま、図書館利用者・本校生徒共通の玄関から侵入し、図書館内を歩き回るところから、対応役の3名の教員が動き始める。
- ② 初期対応
不審者が授業中の教室へ近づこうとする時に、3名のうちの1名の教員が立ち入り禁止の指示もしくは、別室への移動を指示する。(写真A参照)
- ③ 不審者の判断
教員の指示に従わない時点で不審者と判断し、1名の教員がさす股を2本持ち出し、2名の教員で教室への移動を阻止する対応を行う。
- ④ 110番通報と校内放送による避難指示
その間、1名の教員が近くの職員室に戻り、事務職員に避難のための校内放送を指示し、同時に携帯用の小型コードレス電話機(いわゆるPHS)を使って、実際の110番通報を行い、状況等を説明し、出動を依頼する。
- ⑤ 不審者の取り押さえと生徒避難
警察署員の出動によって不審者を取り押さえ、その間、各教科教室から担任の指示で学級ごとに体育館へ避難し、人数確認の後、学年主任から教頭へ報告する。(写真B・C参照)
- ⑥ 防犯教室
警察署員を講師に、KYTを取り入れた指導を受ける。(写真D参照)
- ⑦ 観点別評価
「不審者への対応の仕方」「教職員どうしの連絡のとり方」「避難の仕方」の3つの観点で、警察署員と教職員が問答形式もしくは記述形式で評価を行う。



写真A



写真B



写真C



写真D

2 成果と課題

3つの観点ともに良い評価を得たが、特に、音が全館に響きやすい本校の校舎において、不審者に過度な刺激を与えないよう静かに避難することができた。また、不審者役の警察署員の迫真の演技によって、教員は緊張感をもって対応することができ、図書館利用者と不審者を区別する判断のタイミングを学習することができた。

不審者への対応時の課題としては、防犯用具の「さす股」だけに頼らず、今後は手近な本や椅子を活用する柔軟な動きが必要である。

取組名	KYT学習
取組の特徴	考えてみましょう「危険な場所とは?」「不審者に出会った時は?」「自分の身を守るためには?」
学校名	長門市立菱海中学校

取組の概要

- 1 題材 考えてみましょう「危険な場所とは?」「不審者に出会った時は?」「自分の身を守るためには?」
- 2 ねらい
 - ・ 危険な場所について考えることにより、自分のことは自分で守ろうとする意識（防げる危機）をもたせるとともに、危険な場所に対する視点を明確にし、危険予知力・危機回避力の育成を図る。
 - ・ 学校に不審者が侵入した場合、登下校時に不審者と遭遇した場合の対応の方法を身につける。
- 3 題材設定の理由

近年、学校は安全な場所とは言えなくなっている。不審者の侵入など生徒の安全が保てない社会現象が続いている。このような状況の中で、事件を未然に防ぐため、生徒の自己安全意識を育成することは重要な学校課題である。

本題材は、生徒に校区や通学路の領域性・監視性に注目させ、危険予知力・危機回避力を育成するとともに、学校・登下校の不審者に対応する方法を身につけることをねらいとする。
- 4 指導計画（2時間）

第一時 「危険な場所とは?」（本時 1 / 2）

第二時 不審者対策訓練
- 5 本時の目標
 - ・ いろいろな場所のイラストから、安全な場所と危険な場所を見つけ出し、その理由を考えることにより、危険な場所に対する視点を明確にする。
 - ・ 不審者に遭遇した場合の対処方法を確認する
- 6 準備物

ワークシート



取組名	校内ふれ愛見守り活動
取組の特徴	学校支援ボランティアスタッフが生徒とのふれあいと安全点検をかねて校内を巡回し、注意事項を協議することで学校の危機管理意識を高める。
学校名	萩市立萩西中学校

取組の概要

1 ねらい

第三者の新たな視点で、生徒の昼休みの過ごし方や校内の安全管理について点検してもらい、気付いた事項について協議し改善することで、学校の危機管理意識を高める。

2 内容と方法

- ・毎月第4金曜日を基本として、昼休み時間に見回り用のユニフォームを着用して校内を巡回してもらう。
- ・生徒とふれあいながら昼休みの過ごし方を観察してもらうとともに、校舎内外の安全点検を実施してもらう。
- ・巡回終了後、生徒の様子や施設・設備面で気になる箇所を指摘してもらい、その改善について協議する。
- ・簡単に修理可能な箇所については、ボランティアスタッフの方に修繕してもらっている。



生徒への声かけ・ふれあい



施設の安全点検

終了後の協議・意見交換

3 考察と課題

第三者の視点で指摘してもらうことで、学校では気付かなかった注意箇所が確認されることがあり大変参考になっている。また、地域の方なので生徒との親交があり温かい声かけが生徒の励ましになっている。ボランティアの方も多忙であるが実施回数が増やしていけるとよいと考えている。

取組名	交通安全指導（登下校）への取組
取組の特徴	自他の生命を尊重し、健康で安全な学校生活を送るための習慣や態度を育てることをねらい、教育活動全般の中で安全教育を実践していく。特に「登下校時の安全」に重点をおき、事故の予防に力を入れていく。
学校名	岩国市立通津中学校

取組の概要

1 本校の実態

本校の校区は岩国市南部に位置し、昔ながらの集落と工業地帯や住宅団地がある。校舎は増えていく住宅と少なくなっている蓮田に囲まれている。校区内を通っている188号線では、近年交通量が増加し、毎朝のように交通渋滞が発生している。その影響で学校周辺の通学路が通勤自動車の迂回路となり車の増加に伴い、危険度は急増している。

2 安全な登下校指導のために

◎ 学期はじめに、生徒・保護者を対象にし、校区内の交通危険箇所を連絡してもらい、それを基に危険マップを作成している。この活動により、各家庭で交通安全に係わる話題の提供や生徒への安全意識の高揚に役立っている。

◎ 交通安全県民運動の期間において7：45～8：00の間、「乗越橋」「踏み切り」「三井商店前」で教職員による交通安全指導を実施している。生活委員会では、安全意識や交通マナーの啓発に努めるとともに、交通安全旗を校舎前の道路に沿って掲げている。



また、昭和60年度の生徒総会において採択された安全宣言を、生活日記に載せ、折に触れ全校生徒により唱和し、その意義を受け継いでいる。

安全宣言

わたくしたちは
 自他の生命を尊重し、安全で規則正しい生活をおくることを誓います。
 わたくしたちは
 常に心豊かに校訓を守り、落ち着いて安全な行動に努めることを、本校の伝統として引き継いでいくことを宣言します。

3 その他の実践事項

- (1) 自転車の点検、自転車通学生への指導
- (2) 委員会活動によるポスター等による交通安全のよびかけ
- (3) 交通教室の実施

取組名	全校集会における安全学習
取組の特徴	(1) 実際の交通事故の事例を用いた危険予測学習 (2) 「ヒヤリ・ハット体験」の事例紹介による危険回避意識の高揚
学校名	防府市立佐波中学校

取組の概要

(1) 実際の交通事故の事例を用いた危険予測学習 (KYT)



本校の生徒が実際に交通事故（接触事故・軽傷）にあった現場に行き、状況を確認。自転車側、自動車側、それぞれの視点での見え方を撮影。

自転車側の視点を見せて「自分ならどうするか」を考えさせよう。また、自動車側の視点を見せて、実際の事故状況を知らせる。



本件の事故は、自転車で歩道を通行中、路地から出ようとする自動車が『停止』しているのを確認したうえで通過しようとしたところ、自動車が発進して起きた接触事故である。自転車側からすると、防ぐのが難しかった事故かもしれない。しかしながら、「それでも事故にあわない」ためには、「出てこないだろう」でなく、「出てくるかもしれない」という危険予測とそれに伴った慎重な行動が必要である。そのことを多角的な現場写真を通して考えさせた。(本人および保護者には了解を得て実施)

(2) 「ヒヤリ・ハット体験」の事例紹介による危険回避意識の高揚

○ アンケートの実施

(目的) 夏休み中に事故の報告は受けていなかったが、実情を把握するため
(内容) 「水難事故」「交通事故」「その他の事件事故」に関して

- ① 「事故の未然防止に努めた」選択・詳細記述・
- ② 「事故にあった、あいそうになった」選択・詳細記述

(結果) 交通事故に関して (抜粋)

- ① 「未然防止」・・・一旦停止・左右確認、スピード抑制等の危険回避行動
- ② 「事故にあった」・・・ 1件 (自転車による自動車との軽い接触)
「事故にあいそうになった」・・・ 11件

(例) 自転車のスピードが止まらなくて、女性とぶつかりそうになった
青信号で渡ろうとしたら、スピードを出した車がきて危なかった

○ 全校集会での事例紹介

「未然防止を心がけた事例」「事故にあった、あいそうになった事例」について紹介し、事故にあわないようにする危険回避意識の高揚を図った。

取組名	専門家と連携した防災出前授業
取組の特徴	山口大学大学院理工学研究科 鈴木素之准教授による防災授業を全校生徒で受けた。
学校名	萩市立佐々並中学校

取組の概要

期日：平成22年7月6日（火） 5. 6校時

1 ねらい

- ① 災害を引き起こす自然現象について、実験を通して発生する仕組みを理解する。
- ② 豪雨や地震による被害の特徴を知る。
- ③ 地震や台風に向けて自分たちの身を守るためにできることを知る。

2 内容と方法

- ① 豪雨や台風・地震等による被害の特徴について知る。
 昨年7月21日に防府市で起こった集中豪雨や、台風によって引き起こされる災害について、ビデオや天気図、時間雨量等のデータをもとに説明を聞き、土石流災害や崖崩れの起こる原因について学習した。



- ② 台風の発生する仕組み、地震による液状化現象についての実験

学生の行う実験を間近で見たり、実際に実験装置を動かしながら台風の発生する仕組みや液状化現象について学習した。



- ③ 災害に備えて

地震や台風に向けて、日頃から注意することや、災害時に気をつけなければならないことについて学習した。

3 考察と課題

昨年度に引き続きの防災出前授業であったが、昨年度の授業後に、防府市での土石流災害が起きたこともあって、災害は身近にあることを実感し、終始興味をもって学習していた。また、今年の授業直後には、土砂災害警戒情報発令による臨時休校も経験したので、今回の授業が印象に残ったようである。

今後も継続して防災教室を開催することで、生徒の防災意識をさらに高めていきたい。

取組名	青少年健全育成に係る地域と協力した取組
取組の特徴	<p>地区社会福祉協議会青少年育成部が主催する「青少年健全育成に関する標語コンクール」に地域の小中学校児童生徒全員が参加することにより、健全な地域づくりへの意識と自覚を高める。</p> <p>優秀作品を看板にして地域に掲示し、地域住民への安心・安全な地域づくりへの啓発を行う。</p>
学校名	岩国市立御庄中学校
取組の概要	

- 活動名 「青少年健全育成にかかる児童生徒の標語」コンクール
- 期日 応募期間・・・毎年7月～9月下旬
 審査・表彰・・・11月～12月
 最優秀作品の展示期間・・・表彰後1年間
- 応募対象 御庄小学校1～6年と御庄中学校1～3年生の全児童生徒が応募
- 内容

地域について、4つの内容（非行防止、郷土美化・愛護、あいさつ運動、交通安全）に関する標語を児童生徒が創作し、一人一作品を標記コンクールに応募する。応募作品を地区社会福祉協議会青少年育成部の関係者や小中学校長などをメンバーとする審査委員会で審査し、各学年の優秀作品を選出、表彰する。

さらに各学年の最優秀作品は、看板にして地区公民館前に一年間展示し、地域住民にも「安心・安全なまちづくり」の啓発とする。

5 成果
 この事業は、昭和58年から御庄地区で継続的に実施されており、青少年健全育成に関わる伝統ある活動のひとつである。

コンクールへの応募対象者を、御庄地区の小中学校の全児童生徒としているため、本地区で育つ全ての子どもたちが、小中学校在学中に少なくとも9回は、自分の地域を見つめ、安心・安全なまちづくりへの思いや願いを、標語の形で表現する機会をもつことになる。

事業としてはすっかり定着しており、児童生徒にとっては体育祭後の恒例の活動であるが、毎年、様々な視点の作品が出され、その時々々の生徒の実態や、地域の環境などをうかがい知る材料ともなっている。

また、活動推進にかかわる一連の作業は、学校と地域の関係機関との連携を深めることに大いに役立っており、今後も大切にしていきたい。



取組名	地域との連携を深める活動
取組の特徴	地域の声を聞き、地域の人と生徒、学校がボランティア活動を通して連携を深める。
学校名	周南市立熊毛中学校

取組の概要

本校は、次に示したような活動をとおして、地域と学校が連携を深めることで、犯罪のない安全で安心なまちづくりを進めている。

○PTA活動

- ・地区懇談会

5つの小学校区ごとに行っている。

- ・登校見守り活動

毎週水曜日に、通学路15ヶ所に保護者が立ち、生徒の登校を見守る。すべての家庭が参加する形で実施している。

- ・下校見守り活動

学期に1回、生徒の下校時間に合わせて保護者有志による見守り活動を行っている。

- ・生徒と保護者による校内クリーン作戦

夏季休業中に、全生徒と保護者による共同作業をとおして、学校の環境を美しくする活動を行っている。

- ・親子綱引き大会

参観日に、クラス対抗戦による親子参加の綱引きをとおして、お互いをよく知りあう機会となっている。



地区懇談会の様子



校内クリーン作戦の様子

○地域へ参加する活動

・各地区の祭りや行事、幼稚園の運動会などに生徒がボランティアとして参加し、地域住民と一緒に活動をとおして、お互いについて理解を深めるとともに、顔見知りの関係を築いている。年間の参加人数は、200名を超えている。

- ・地区別ボランティア活動

部活動単位で、地域に出かけて清掃作業等のボランティア活動を地域と一緒にやっている。



地区別ボランティアの様子

○地域と連携する活動

- ・地域と一緒にの見回り活動
- ・各種団体との協力



地区ボランティアの様子

取組名	下松市「あいさつ運動の日」におけるあいさつ・交通安全指導
取組の特徴	久保中学校PTAが中心となり、家庭・学校・地域団体が一体となって実践し、ネットワーク関係を深め生徒の健全育成への協働を推進する。
学校名	下松市立久保中学校

取組の概要

1 趣 旨

下松市の「あいさつ運動の日」(10/1)に、家庭、学校、地域、関係団体等が一体となってあいさつ運動、並びに交通安全指導を実施することを通して、あいさつを通じたコミュニケーションづくりや、生徒の交通安全に対する意識の向上を図る。また、本活動を通して、学校・家庭・地域とのネットワーク関係を深め、生徒の健全育成に向けた協働を推進する。

2 期 日 平成22年10月1日(金)

3 実施場所 校区通学路交差点3カ所、久保中学校校門

4 実施時間 校区通学路交差点3カ所は、登校時(7:30~8:00)
久保中学校校門は、登下校時(7:30~8:00、17:50~18:10)

5 参加者 ・スクールガードボランティア ・たくましい久保っ子を育てる会
・久保中学校PTA ・久保中学校生徒会(校門で実施)

6 啓発方法

- ・PTA会長が全会員に趣旨や取組例について紹介し、アイデアを募集した。
- ・PTA役員と学校が協力して実施要項を作成した。
- ・学校だよりにより生徒や保護者への呼びかけ、周知した。
- ・PTA会長、校長連名による協力依頼文書及び実施要項をスクールガードボランティア、地域関係団体へ配付し、協力を得た。
- ・取組の様子を学校のホームページに掲載した。



7 取組の成果

市教委配付の幟旗を実施場所に設置して、保護者や地域団体、教員、生徒会が一体となってさわやかなあいさつや声かけが行われた。

実施にあたり、実施場所付近の商業施設や公民館から参加者の駐車場使用の面で協力が得られた。

学校のあいさつ指導の目的や取組を紹介する良い機会ともなり、運動への理解と拡大が図られた。



8 今後の取組

校区小学校やPTAとの共同開催や、学校安全委員会が計画している研修会に地域団体等関係者の参加を呼びかけるなどの取組を通して、「地域で見守る」、「地域で育てる」気運を高め、ネットワークの構築と拡大、深まりを図りたい。活発なコミュニケーション活動を通して、安全・安心なまちづくりを進めていきたいと考えている。



取組名	安全教育の充実（危険予測学習の実施）
取組の特徴	生徒の安全意識を高め自ら進んで行動させるために、校区内の通学路や交差点等を設定場面として、危険予測学習を全学年・全学級で計画的に実施する。
学校名	下松市立末武中学校

取組の概要

1 取組の理由と実施計画

従来の教師主導の安全指導だけでは、生徒の安全意識を高め自ら進んで行動させるのは難しい点が多い。そこで、生徒自らが実際の身の回りの場面に潜む危険を予知・判断し、その回避行動を選択・決定させるための訓練として、今年度は全学年で「危険予測学習」に取り組むことにした。実施時期・設定場面（予定を含む）は次の表のように計画している。

回	時期	時間	設定場面	領域		
				交	生	災
第1回	9月下旬	25分	学校横の狭い通学路【正門～ハイパス間】	◎	△	△
第2回	11月上旬	25分	学校近辺の狭い一般道路【マックスバリュ南側市道】	◎	△	
第3回	12月上旬	25分	校区内の大きな交差点【カリア横の国道交差点】	◎		△
第4回	1月中旬	25分	夜間の通行【予定】	◎	○	
第5回	2月中旬	25分	市内の公園・人通りの少ない通り【予定】		◎	

2 取組の様子

一回目の危険予測学習は9月29日(水)のSタイム(25分のモジュール型学習時間)に実施した。

設定場面は、全校生徒の約5分の1の生徒が実際に徒歩や自転車で登下校に利用している、学校横の狭い通学路である。夜間には街路灯が点灯するものの、薄暮時もふくめ遠くまでの見通しが十分きかない場所で、また、大雨の時には側の小川から水があふれ道路が冠水したことがある場所である。

この場面は、生徒にとって、登下校時の交通安全の領域に関する危険の予知・判断は比較的容易であるが、夜間の通行や物陰に不審者が潜んでいる等の生活安全の領域に関する予測や、災害安全の領域に関する予知は難しいと思われる場所である。

学習は短い時間を効果的に、また、生徒自身が活動を活発にできるように、生徒を3～5人のグループに分け、4ラウンド法によって展開をした。基本的には次のような流れである。



【0 設定場面の提示】

「ここは、どこだろう」

プリントやポスターを使って、考えたい場面を示し場面の状況をつかむ。



【1 現状把握(5分)】

「どんな危険が、潜んでいるだろう」

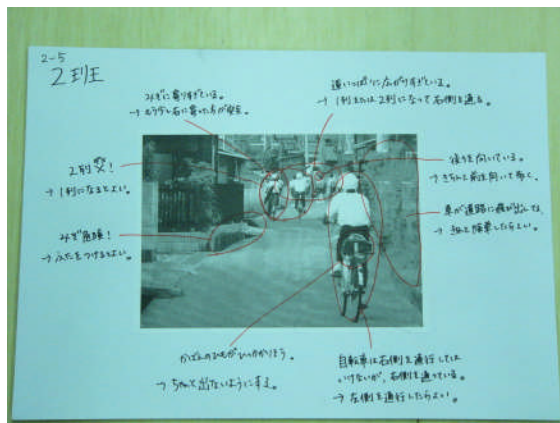
どのような危険が潜んでいるか、問題点を指摘する。その際、問題点の指摘は自由に行わせ、他のメンバーの指摘内容を批判するようなことは避けさせる。



【2 本質追究(5分)】

「これが、危険のポイントだ」

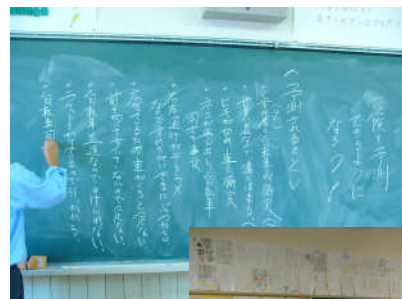
指摘内容が一通り出揃ったところで、その問題点の原因などについてメンバー間で検討し、問題点を整理する。



【3 対策樹立(5分)】

「あなたなら、どうする」

整理した問題点について、改善策や解決策などを発表する。



【4 目標設定 (討議・合意(5分)、
発表・掲示物作成(5分)】

「私たちは、こうする」

あがった解決策などをメンバー間で討議し合意の上、まとめる。

合意結果を掲示したり、発表で情報交換(全体)したりしてメンバー間の共通認識として情報を共有し、事前の危険回避を図る。



3 生徒の反応と今後の課題

生徒の活動への取組の様子はかなり意欲的であり、学年や男女の違いに関係なく活発に意見を交換していた。特に、自分の想像の範囲を超えた意見等が出たときなど、納得や賞賛の声グループ内で自然に発生していた。しかし、予知できた危険等に対して考えた改善策や対策の多くは、「……すればよい」といった他者に対しての要望や押しつけの意見であり、「自分たちが……する、……を自分たちで改善する」という意見はまだ少ない。自分たちの行動を振り返り、改善しようとするレベルまでは到達できていないと思われる。

授業を仕組む教師の側も事前に学年会等で検討がなされ、ワークショップ形式を取り入れ、付箋等を活用して改善策をまとめさせようと工夫を加えた学年や、結果をまとめた掲示物を作って、安全な登下校の注意喚起を工夫された学級もあった。今回が初めての取組であるので、教師側から意見が出しにくいのかもしれないが、設定場面の選定や画像等にもっと要望が出るようになると良いと考えている。

現時点は、危険予測学習の第一回目が終了した段階であり、今後の学習の繰り返しによる生徒の変容を期待している状態である。

そのためにも、今後の課題として

- より効果を上げるために学習のマンネリ化を防ぐ
- 生徒にとって身近な課題と感じられるように、設定場面を可能な限り校区内から選択する
- 目標設定のための討議のレベルを上げ、自分たちの行動の振り返りにつなげる等があげられる。

また、学校だより「すえたけ」を活用し、保護者にも家族で危険予測について話し合ってもらえるよう家庭・地域に向けての情報提供をする予定である。

取組名	警察・地域・PTAと連携した交通安全指導
取組の特徴	交通安全指導、啓発活動として、PTA・全教員で交通安全指導(下校指導)並びに警察署の協力のもとでの「少年リーダーズ」活動を実施
学校名	山口市立大内中学校

取組の概要

本校は校区が広く、全校生徒703名の大規模校であるが、そのうち70%を超える生徒が自転車通学である。道が狭く危険箇所が多い上に、一斉に生徒が下校する定期テスト期間などは特に混雑し、危険な状況にある。

本校では、推進期間が定期テスト期間と重なったため、交通指導に力を入れ、PTAと協力して下校時の安全指導を実施することにした。また、警察署の「少年リーダーズ活動」にも取り組み、自転車の防犯点検活動にも取り組んだ。

◎ P T A ・ 全 教 員 による下校時、学校付近道路上での交通安全指導

期間 10月12日(火)～15日(金)

PTA地区委員(約60名)が当番を決め、生徒下校時に、学校近くの危険ポイントに複数名で立って指導。学校の全職員も参加。指導者側が生徒の実態把握や意識の向上に努めるとともに、通学路の危険箇所の把握にも努めた。なお、期間中は、登校時も毎日、教員による通学路の危険箇所での指導を実施した。

◎少年リーダーズ活動(山口警察署の協力のもと実施)

①自転車の防犯点検活動

期日 10月20日(水)7:50～30分間
(推進期間の取り組み)

場所 大内中学校駐輪場

参加者 生徒(生徒会交通委員)22名、教員数名、
少年警察ボランティア数名、
山口署生活安全課 数名、
大内地区青少年健全育成協議会 数名

実施内容 チェック表にもとづく自転車の防犯点検、広報チラシの配布



②交通標語看板づくり

期日 7月30日(土)

場所 大内地域交流センター

参加者 本校美術部生徒、大内地区青少年育成協議会のメンバー、山口署生活安全課

実施内容 大内地区青少年育成協議会で募集した交通安全標語の看板づくり



取組名	地域の声を活かす安全な学校づくりの取組
取組の特徴	地域からの声をもとに、学校の校門付近に「一旦停止」などの文字を書き、学校と地域との交通安全を推進する。
学校名	山口県立徳山北高等学校

取組の概要

徳山北高校は、学校の校門を出るとすぐに車道が走っている。車を運転して校外に出るとき、校門から一旦停止せずに外に出ると危険な状態が続いており、地域住民からも様々な声をいただいていた。

そこで、車が余裕をもって校外に出ることが出来るように、校門付近に黄色のペイントで「一旦停止」の文字を書いた（写真1参照）。このことにより、「校門から出るときには一旦停止をする」という意識を教職員、保護者、来校者がより強く持てるようになった。また、校門から出るとすぐに死角から車が合流するおそれもあるので、「合流注意」の文字も書いた（写真2参照）。

地域の声を活かした学校安全というものも、引き続き考慮していく必要がある。生徒の交通安全に対する意識の高揚にもつながってほしいと願っている。

(写真1)



(写真2)



取組名	ミニ防犯教室
取組の特徴	「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」後に短時間（20分程度）防犯に関する教室を開催した。簡単な護身術の実技指導を中心に行った。
学校名	山口県立山口高等学校徳佐分校

取組の概要

日時 平成22年7月20日（火）9時30分～10時40分（内約20分間） ミニ防犯教室
 場所 山口高等学校 徳佐分校 視聴覚室
 参加者 全校生徒（67人）、教職員（12人）、保護者、その他（1人）
 指導者 山口警察署生活安全課（3人）
 内容 防犯に関する簡単な現状説明・護身術実技指導（女性でも可能な比較的力の
 いらぬ簡単な技の指導 以下当日の写真・新聞記事参考）



（講師の方々）



（講師と先生で実演）



（皆でやってみよう）

護身術を習うことが初めての生徒も多く皆、真剣に話を聴いていましたが、実技になると和気藹々とした雰囲気になりました。

生徒の感想（新聞記事から）

「・・・夏休みでさまざまな場所に行くと思うが、事件を起こしたり巻き込まれたりしないよう気を付けたい。」

山口新聞（7月21日）

薬物の種類や危険性を説明
 山口高校徳佐分校で薬物乱用防止と防犯教室
 山口市同東徳佐中の山口高校徳佐分校（山野あきら校長、68人）で20日、夏休みを前に、薬物乱用防止と防犯教室があり、全校生徒が参加した。
 山口署の生活安全課職員が、薬物の種類や危険性などを説明。「薬物乱用は体を壊るほかに、」感手を出すとかげ出せない」絶対に使わないで」と話した。
 山口署管内では昨年秋、1カ月以上家出していた少女が、家出先で覚せい剤を注射されていたことも紹介。「薬物事件は都立だけの出来事ではない。」「覆れが取れる」「やせられる」などと語られても断る気持ち強く持つて」と呼び掛けた。
 3年生の白松麻美さんは「17」は「あつたため、薬物の危険性を学んだ。夏休みでさまざまな場所に行くと思うが、事件を起こしたり巻き込まれたりしないよう気を付けたい」と話した。

取組名	教職員対象の防犯研修
取組の特徴	外部から学校内へ不審者が侵入した場合を想定して、教職員が適切な判断・行動ができるように外部講師による指導を受けた
学校名	山口県立下関工業高等学校

取組の概要

日時：平成22年10月13日（水）13：00～13：50

対象：本校教職員40名 場所：武道場

○下関警察署生活安全課の松田様ほか1名を講師として、職場における防犯体制のあり方の研修を行った。なお、この研修には教職員以外に地域のサポート隊4名と市役所防犯課2名も研修に参加された。

○学校に設置されているサスマタの使い方の講義をしていただいた。

- ・不審者がどのような凶器を持っているかによって間合いの取り方がかわる
- ・誤った使い方だと、逆に相手の方が力が入れやすくなるので、効果的な使用法をマスターすること

○職場に設置されたサスマタ2本を使った実体験を通して、使用感覚を培う。

- ・サスマタを持った2名の立ち位置や動きについて指導を受けた
- ・犯人は必ず2人のうち弱そうな人間の方に向かってくるので気をつけること

○直接体をつかまれたときの対処法についての講習

- ・手首をつかまれた場合は、つかまれた瞬間に手をパーに広げてつかまれた側のひじを相手の顔面方向につきだせば、つかまれた手が外れる
- ・両手首の場合は、両手ともパーに広げた後目の前で合掌し、その手を相手の胸元方向につきだすと外れる
- ・後ろから抱きつかれたときは、速やかにしゃがんだ後、前に向かって駆け出すと外れる



以上のような実践的な対処法を学んだ。

取組名	安全管理の充実
取組の特徴	生徒・教職員・保護者・地域が一体となった校内の安全点検活動
学校名	山口県立豊北高等学校

取組の概要

1 ねらい

生徒・教職員・保護者・地域が一体となった、校内の危険要素の点検及び改善

2 方法

- (1) 学校安全アンケートと第三者（PTA）による安全点検活動
- (2) 改善活動

3 内容

- (1) 本校では、教職員だけでなく、生徒と保護者の主体的な危機回避能力や危機対応能力を高めるため、毎学期末「学校安全アンケート」を実施し、学校内外の危険箇所の把握と生徒・保護者への情報提供を行っている。また、昨年度からは、オープンスクールや文化祭・PTA役員会等の学校行事を利用して、PTA関係者や学校評議員に学校内と周辺の安全点検を依頼し、第三者の目を通じて生徒の多面的な安全確保を図る方策を講じている。

- (2) 緊縮予算のため、本校も校内の安全環境整備に苦慮しているが、社会経験の豊富な臨時職員（シルバー人材）の着任により、ここ2年間で生徒の立場に立った校内整備が飛躍的に進んでいる。

上段写真は、テント収納庫が台風により破損したが、予算がないため、生徒の安全確保を考えて校舎地下スペースに収納施設を設けたものである。**中段写真**は、動線確保と不審者の侵入や潜伏を予防するための校内整備作業である。本校敷地は毛利氏の居館跡であり雑木が多いため、不審者や害獣（イノシシ等）が忍び込みやすい。そこで所轄警察署の指導も受けながら、伐採・除草作業を実施している。

また、**下段写真**は、教職員による校内巡回である。週3回、昼休みに実施し、生徒とのコミュニケーションを通して、タイムリーな危険箇所情報の収集と即応、校内の安全確認、生徒観察等が的確かつスピーディになり、生徒や保護者から好評価を得ている。

(1)・(2)いずれの活動も、本校で通常行っている行事や業務であり、小規模校である本校の実情に即し、かつ今後も継続可能な無理のない内容に精選している。



取組名	交通安全教室の実施
取組の特徴	外部講師（民間）を招聘しての講演
学校名	山口県立柳井高等学校

取組の概要



1 実施日時 平成22年10月28日（木） 14:50～15:40 （LHR）

2 会場 本校体育館

3 対象 本校生徒520名

4 講師 （社）日本損害保険協会 中国支部講師 難波春晴 氏

5 講演内容 「自転車と交通安全について」をテーマに、日本損害保険協会が作成しているパンフレット『自転車の事故』を資料として、事故の発生原因や、事故を起こさないための安全な自転車の走行の仕方等について、説明された。

本校生徒の約半数が自転車通学をしている。近年、登下校時での重大事故は発生していないが、学校周辺の交通量も多く生徒の自転車運転上のマナーも向上させる必要があり、今年度はこのような講演を実施した。

全国的に、交通事故全体に占める自転車による事故の割合が増加しており、その発生原因として安全運転義務違反が最も多いことなどを学んだことが、今後の交通安全に対する意識やマナーの向上につながっていくことを期待したい。

取組名	「交通安全コスモスバス」の制作
取組の特徴	○学校と地域・関係機関との連携による安全・安心のまちづくり ○生徒の学習の成果（知恵・知識と技能）が活かされた取組
学校名	山口県立宇部中央高等学校

取組の概要

宇部警察署などの依頼を受けて、本校美術部員と生徒会役員、交通委員ら約40人が、夏休みの1週間を使い、宇部市の船木鉄道バス1台に交通安全の気持ちを込めてコスモスや道路標識などをペンキで描いた。

秋の全国交通安全運動開始日の9月21日（火）に、本校で関係者と全校生徒が見守る中出発式が行われた。

コスモス号は、来年2月まで路線バスとして走りながら交通安全のメッセージを送り続ける予定である。



出発式



コスモスバス

取組名	平成22年度 交通安全教室
取組の特徴	県警とJAと連携して、運動場にトラックや自転車を持ち込み、プロのスタントマンによる模擬実験や危険事項の実技観察をとおして、危険意識の高揚と安全運転の必要性を学習する。
学校名	山口県立豊浦高等学校

取組の概要

1 日時 平成22年9月1日（水）

2 場所 山口県立豊浦高等学校運動場

3 日程

- (1) 開会式 午後1時15分～
- (2) 市内交通情勢報告 午後1時25分～
長府警察署より
- (3) 交通事故再現実技 午後1時30分～
スタントマンによる模擬事故
- (4) 自転車乗り方指導 午後2時10分～
県警本部交通移動教室
- (5) 閉会式

〈写真1〉

プロのスタントマンによる交差点での自動車と自転車の模擬衝突事故



〈写真2〉

県警本部交通移動教室による安全な自転車運転指導



4 成果

迫力ある事故シーンを視聴し、事故の危険性を現実のものとして生徒がとらえることができた。また、その際の事故の原因や防ぎ方についての解説があり、非常に効果の高い交通教室となった。自転車が被害者となる場合だけでなく、加害者となるケースについても指導があり、交通ルールやマナーを守る必要性が理解できた。

取組名	1 交通安全教室と薬物乱用防止教室 2 生徒による学校内外の安全確認
取組の特徴	1 警察から講師を招き交通安全指導と薬物乱用防止 2 当番生徒と教員による校舎内外のゴミの収集と安全確認
学校名	山口県立徳山高等学校定時制

取組の概要



交通安全教室の様子

1 交通安全教室と薬物乱用防止教室

毎年9月と11月に薬物乱用防止教室と交通安全教室を開催している。周南警察署より講師を招き、学校のある周南市周辺で起こっている事件、事故への認識を深め、薬物や交通事故の被害に遭わないように努めている。定時制には自動二輪や自動車に通学している生徒も多く、交通事故多発区域などの情報は特に役に立っている。また、生徒はいろいろな職業に従事しており、学校外の世界との接点も多いので、MDMAなどの麻薬の検挙状況を知ることが危険を事前に回避することに役立っている。

2 生徒による学校内外の安全確認

毎日放課後（20:25 から）、生徒会役員と当番生徒および定時制教員（当番制）で校舎内外のゴミの収集と安全確認を行っている。校舎内をまわるグループと、校舎周辺及び正門周辺をまわるグループに分かれ、環境美化に努めるとともに、自分たちが学ぶ環境に異変はないか、危険な箇所はないか確認を行っている。生徒みずからがタバコの不始末はないか、消えかかっている蛍光灯はないかなど、見回することで防犯・防災への意識向上に努めている。

生徒による学校内外のゴミ収集と安全確認



取組名	交通安全・防犯についての講話及び生徒会活動
取組の特徴	生徒指導課による全校生徒への講話及び生徒会による少年リーダーズ活動C・C作戦への参加
学校名	山口県立防府西高等学校

取組の概要

1 ねらい

本校生徒に起きた交通事故や犯罪被害を例に挙げ、交通安全や生活安全に対する注意喚起を行い、危険を予測し回避する意識・能力を身につけさせる。

また、防犯について生徒の主体性を育成するため、生徒会が少年リーダーズ活動に参加し、その活動を全校生徒に発信することにより、犯罪防止に対する意識の高揚を図る。

2 方法

生徒指導課による全校生徒への講話及び、生徒会による少年リーダーズ活動への参加

3 講話内容

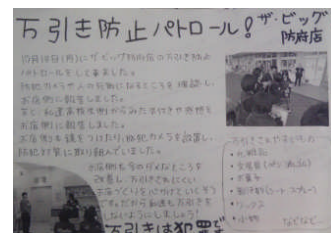
10月12日、防府市西浦の信号のない横断歩道において、自転車で登校中の本校男子生徒と軽自動車の接触事故が起こった。現場は緩やかなカーブを抜けた見通しの良い直線道路であるが、生徒が横断をはじめた直後の接触事故であった。

交通安全については、全校朝礼や学年集会の場で度々指導を行っている。今回の事故が発生した際は、緊急の全校朝礼を開き生徒への注意喚起を呼びかけた。内容は、「交通ルールの遵守」・「時間にゆとりを持って行動する」・「自らが注意していても事故は起こる可能性がある」ことなど伝え、事故防止に向けた意識を一層強く持つよう指導した。

また、本年度に入り女子生徒が下校時に不審者による痴漢・迷惑行為などの被害に遭う事件が数件発生している。その都度危険を避ける行動や、被害にあったときの対応について全校生徒に講話し、危険を予測し回避する意識や能力を身につけるよう指導している。

4 生徒会による少年リーダーズ活動C・C作戦への参加

10月18日(月)「ザ・ビッグ防府店」にて、本校生徒会の6名が少年リーダーズ活動C・C作戦に参加した。活動の目的は、生徒のボランティア活動と店舗が協力して万引きをさせない環境を作ることである。参加した生徒は、店舗内を巡回し、商品の陳列状況や防犯設備などを点検し、改善したらよいと感じたことについて、店舗の店員と意見交換を行った。その後生徒会は、生徒会新聞に少年リーダーズ活動に参加した記事を書き、生徒に向けて万引きなど犯罪防止に対する意識を強く持つよう呼びかけた。



取組名	本校における学校安全の推進 ～生徒・保護者・教職員への取組～
取組の特徴	安全教育は、生徒・保護者・教職員のすべてを網羅し行うことが大切であるという考えから、三者の安全教育研修や安全活動を計画的に行った。
学校名	山口県立小野田高等学校

【 取組の概要 】

今年度、本校が行った防犯を含む学校安全の取組について、(1)ねらい(2)実施方法(3)内容に分けてそのいくつかをお示しする。

1 「生徒に対する防犯教育」 “危機回避・対応教室” の実施

- (1) 不審者及び交通事故に対する「危機回避意識の高揚及び能力の育成」と「危機対応能力(事後対応能力)の育成」を図る。
- (2) 本校生徒指導部教諭によるパワーポイントを使っての講義形式。
- (3) 予めKYT学習用に作成した映像による危機予測の視聴や対応方法などをプリント記入させることで、未然防止能力と事後対応能力を高めるよう努めた。



2 「生徒及び保護者に対する安全教育」 “ケータイ安全教室” の実施

- (1) ケータイによる犯罪被害防止の知識を生徒・保護者に高めてもらう。
- (2) NTTドコモから講師によるパワーポイントを使っての講義形式。
- (3) 被害事例映像の視聴や対応方法の説明により対応方法を知る。
保護者にも案内を出し、数名の参加を得た。



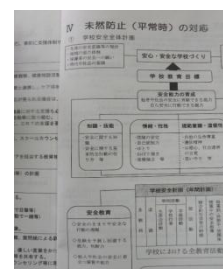
3 「保護者(PTA補導部)との連携活動」 “交通安全指導” (写真なし)

- (1) ①生徒の登下校時の交通安全の確保に努める。②PTA報道部員に実態を観察してもらい、課題点があれば、学校に示唆してもらい、一般保護者にも改善協力を求めていく。
- (2) 毎月3日間、PTA補導部と登下校時に本校近辺の数カ所で立番し指導を行う。PTA補導部員には立番実施可能日を調査し割り振る。(10月は犯罪のない安心で安全なまちづくり推進期間中に実施)
- (3) ①登下校時において学校付近の坂道が危険なことから、降車させ通行させる ②イヤホン等の着用をやめさせる ③交差点での一旦停止、横断について注意を促す。



4 「教職員の危機対応力の強化①」 “学校安全未然防止マニュアルの作成”

- (1) さまざまな危機に対し、事後対応もさることながら、未然防止が重要なことから、新たに「未然防止マニュアル」を作成し全教員に周知する。
- (2) 管理職及び生徒指導部を中心とし一学期中に作成し、従来の「学校安全危機管理マニュアル」に盛り込んで、全教員に配布する。
- (3) 「学校安全全体計画」「学校安全体制」「防犯の取組」「生活安全の取組(防犯を除く)」「交通安全の取組」「災害安全の取組」「生徒の訓練・教職員研修」の項目についてそれぞれ詳細内容を記載するとともに、何処が・誰が行うかを明記し、役割分担を明確にした。



5 「教職員の危機対応力の強化②」 “救急法・AEDの教職員研修の実施”

- (1) 教員一人ひとりが、緊急事態に際して適切な救急処置ができるようにする。
- (2) 日本赤十字社の派遣講師による講義及び実技指導。
5月17日、中間考査期間中に実施。
- (3) 全体講義の後、教班に分かれ、「心肺蘇生法」及び「AEDの操作法」についての実技研修を行った。毎年多くの参加者を得て、充実した研修会となっている。



取組名	幼児児童生徒と教職員による「火災避難訓練」
取組の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・火災発生に備えての避難訓練 ・消防署職員による講評 ・実技体験を通して消火器の知識を得る。
学校名	山口県立下関南総合支援学校

取組の概要

1 ねらい

- ①火災発生の場所に応じて、適切な避難経路を取れるようにする。
- ②教職員の役割分担等について実際の活動の中で確認する。また事後においては、結果の評価を行い、改善策につなげていく。

2 内容

- ①火災報知器ベルや口頭及び手話により、火災が発生したことを知り、教員の指示に従い避難場所へ移動した。
《出火場所は非公開で行い、放送の指示で避難経路を瞬時に選択し、安全に避難場所へ集合する訓練を行った。》



②消防署職員による指導



実際の火事の時の初期消火の大切さや命の大切さ等について消防士から説明があった。また消火器の設置場所及び消火栓の使用方法を日頃から把握しておくよう指導があった。教職員の初動行為においてはマニュアル通り実施でき、特に問題点がないとの講評を受けた。

③消火器の使用方法について

視覚障害や聴覚障害のある幼児児童生徒が、水の出る消火器で実際の使用方法や知識を学習した。

消火器の重さや大きさ、勢いなど、身体全体で体感していた。

